

国際シンポジウムについて

1. シンポジウムの目的及び留意点

一般向けプログラム

一般市民へのわかりやすい情報提供を目的とする

- ・ 情報の内容（テーマ）については一般市民のニーズにあったものとし、わかりやすいメッセージになるよう心がける。
- ・ シンポジウム後の会場アンケート等により受け手側の理解について把握する。
- ・ 一般市民が参加しやすいように休日開催とする。

専門家向けプログラム

国内外の専門家による最先端の研究・取組についての議論を通じ
情報共有・意見交換を図ることを目的とする

- ・ 最先端の研究や取組について扱う。まだ評価の定まっていない内容も含める。
- ・ 国際協力関係事業の中で二国間共同研究/二国間協力と同等に位置づけ、今後は国際セミナー/ワークショップのような形への発展を目指す。
- ・ 専門家向けプログラムで議論された内容のうち、分かりやすい情報提供が可能となったものは、一般向けプログラムにおけるテーマとして扱うことを考慮する。

2. プログラム検討会にかかわる体制について

SPEED'98における取組体制の下では、国際シンポジウムプログラムについては、「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」プログラム検討会において議論してきた。ExTEND 2005における取組体制の下では、一般向けプログラムと専門家向けプログラムを分離し下記のように進めていく。

一般向けプログラム

- ・リスクコミュニケーション推進検討会において議論した上で、化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会へ報告する。
- ・リスクコミュニケーションの観点から、情報の内容/情報の発信方法/情報の受け手の反応といったことを議論する。
- ・他のリスクコミュニケーション推進事業（ホームページ作成事業等）との連携を図る。

専門家向けプログラム

- ・国際協力関係事業の中に位置づけ、その内容は化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会へ報告する。
- ・シンポジウムにおける発表内容には ExTEND 2005 事業内の基盤的研究の内容等も含むが、これらの研究内容は各検討会に報告され評価をうけるものである。ただし、シンポジウムでの発表内容は ExTEND 2005 事業内の研究内容に限るものではない。

3 .第 8 回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウムについて(案)

一般向けプログラム

12月4日(日)

於：沖縄ハーバービューホテル

14:00-14:30 開会式

14:30-16:00 一般向けパネルディスカッション

「(仮題)天然のホルモンはどうなっているのか」

司会 北野大先生(淑徳大学)

パネリスト 田中宏明先生(京都大学) 等

* 12月4日(日): スタディビジット：沖縄美ら海水族館(本部町)

専門家向けプログラム

各セッション 3 演者 135 分

(各発表 30 分 + 質疑 10 分 総合質疑・指定発言 15 分)

12月5日(月)・6日(火) 9:00-17:45

於：沖縄コンベンションセンター

セッション1 (仮題)内分泌かく乱作用解明の新たな切り口

コーディネーター 渡邊肇先生

講演テーマとしては、内分泌かく乱作用以外の毒性発現メカニズム、遺伝子レベルの変化と表現型との相関に関する先端研究、モデル動物(マウス、ミジンコ)における遺伝子レベルの変化と表現型との相関に関する先端研究等を予定。

講演者としては、徳田雅明先生(香川大学)、Sean Kennedy氏(National Wildlife Research Center, Environment Canada)、長濱嘉孝先生(自然科学研究機構)等を予定。

セッション2 (仮題)内分泌かく乱作用に関する試験法開発

コーディネーター 井口泰泉先生

講演テーマとしては、毒性学の基本(種差系統差等の考察を含む)及び内分泌かく乱作用における特殊性、OECDにおける哺乳類を用いた試験法開発、OECDにおける生態影響評価のための試験法開発等を予定。

講演者としては、Thomas H. Hutchinson氏(AstraZeneca R&D)、Drew Wagner氏(OECD EDTA secretariat)、Anne Gourmelon氏(OECD VMG-eco secretariat)等を予定。

セッション3 (仮題)化学物質のリスク評価

コーディネーター 白石寛明先生

講演テーマとしては、産業界における取組等を含めた一般の化学物質リスク評価に関する各方面での取組等を予定。

セッション4 (仮題)野生生物の観察の実際と課題

コーディネーター 花里孝幸先生

講演テーマとしては、英国でのフィールド調査(河川でのローチ観察)、沖縄におけるアイランドエコシステム、緑の国勢調査の実績等を予定。

講演者としては、Charles Tyler氏(Exeter University)等を予定。

セッション5 (仮題)化学物質を対象とした疫学研究の事例とその問題点

コーディネーター 遠山千春先生

内分泌かく乱作用を持つ可能性がある化学物質一般を対象とした疫学研究の事例とその問題点について、国内外で大規模な疫学研究を遂行している専門家を招いて講演をしていただく。さらに、疫学研究を行い結果を評価する際の問題点についても議論する。

セッション6 (仮題) リスクコミュニケーション

コーディネーター 内山巖雄先生

講演テーマとしては、リスクコミュニケーションのあり方・方法論、カナダにおける内分泌かく乱化学物質のリスクコミュニケーションの状況等を予定。

講演者としては、William Leiss 氏(School of Policy Studies, Queen's University)等を予定。